

仏殿

仏殿（仏様のお堂）は建長寺で最も重要な建物のひとつです。内部にある巨大な像は、建長寺の本尊である地蔵菩薩を模ったものです。

仏殿を含め、建長寺の建物の多くは、1400年代と1500年代に起きた破壊的な数多くの火災によって失われてしまいました。建長寺はひどく修復を必要としており、後援者もいませんでした。1600年代になると、徳川家が江戸幕府（1603-1867）を創設し、建長寺の再建を始めました。1647年に幕府は江戸（現在の東京）にある徳川家の寺、増上寺からこの仏殿を寄付しました。

徳川家との繋がりのため、その仏殿は典型的な禅寺の建築よりもずっと豪華に装飾が施されています。天井にはきらめく金箔の背景に描かれた縁起の良い鳥たちの画が描かれています。

仏殿は重要文化財に指定されています。仏殿は信仰を問わずすべての人に公開されています。